

[HOME](#) > [AORI News](#) > [研究集会](#) > [2017年](#) > [災害をもたらす気象とその背景](#)

災害をもたらす気象とその背景

更新日：2017年06月29日

東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター 共同利用研究集会

日 時：平成29年8月1日（火）10:00～17:20
8月2日（水）9:00～11:35
場 所：大槌町中央公民館
〒028-1121 岩手県上閉伊郡大槌町小槌第32地割金崎126
TEL：0193-42-3030
研究代表者：西井 和晃（三重大学大学院生物資源学研究科）*、
田中 潔（東京大学大気海洋研究所）
*連絡先 TEL：059-231-9573、FAX：059-231-9634
e-mail：nishii@bio.mie-u.ac.jp ※「◎」は「@」に変換して下さい
共催：大槌町

プログラム

8月1日（火）

10:00 – 10:05 趣旨説明・事務連絡

セッション1（座長：築地原 匠）

10:05 – 10:27 岡島 悟（東京大学 先端科学技術研究センター）
北西太平洋の水温前線帯の変動に対する大気応答
10:27 – 10:49 山口 颯太（新潟大学 大学院自然科学研究科）
北半球・南半球のテレコネクションの関係
10:49 – 11:11 石田 悠貴（新潟大学 大学院自然科学研究科）
冬季北半球における対流圏界面の変動と西風ジェットの関係
11:11 – 11:36 *栃本 英伍（東京大学 大気海洋研究所）
竜巻等突風を引き起こす温帯低気圧の内部構造と環境場
11:36 – 11:58 春日 悟（新潟大学 大学院自然科学研究科）
竜巻・寒冷渦間階層構造

11:58 – 13:00 昼食休憩

セッション2（座長：春日 悟）

13:00 – 13:22 星 一平（新潟大学 大学院自然科学研究科）
成層圏突然昇温に対する北半球海氷減少の影響
13:22 – 13:44 安藤 雄太（三重大学 大学院生物資源学研究科）
初冬の極夜ジェットの季節進行の停滞とシベリアの寒冷化
13:44 – 14:06 本田 明治（新潟大学 大学院自然科学研究科）
2016年冬季の山陰～北信越に大雪をもたらした大気循環場の特徴

14:06 – 14:18 休憩

セッション3（座長：安藤 雄太）

14:18 – 14:40 築地原 匠（九州大学 大学院理学府）
近年の北海道地方の暴風雪の頻発と爆弾低気圧活動
14:40 – 15:02 吉田 聡（京都大学 防災研究所）
北太平洋爆弾低気圧活動の長期変動

15:02 – 15:27 *平田 英隆 (名古屋大学 宇宙地球環境研究所)
爆弾低気圧と黒潮が生み出した2017年1月上旬の三宅島における記録的な大雨

15:27 – 15:39 休憩

セッション4 (座長: 星 一平)

15:39 – 16:01 川上 雄真 (仙台管区気象台)
黒潮-親潮混乱水域の海面水温が東北地方の降水現象に与える影響

16:01 – 16:23 直井 萌香 (筑波大学 大学院生命環境科学研究科)
北西太平洋での夏季Atmospheric Riversの変動を規定する気候学的要因

16:23 – 16:45 立花 義裕 (三重大学 大学院生物資源学研究科)
革新的洋上ゾンデ観測の提案と、その黒潮前線上での試行

16:45 – 17:07 西井 和晃 (三重大学 大学院生物資源学研究科)
気候平均大気大循環場形成に対する海洋前線の役割

17:07 – 17:20 上田 有佑 (立正大学), 杉原 直樹, 永田 桃子 (三重大学)
自己紹介, 及び今後の研究計画

18:30 - 懇親会 (さんずろ屋)

8月2日 (水)

セッション5 (座長: 岡島 悟)

09:00 -09:25 *木下 武也 (海洋研究開発機構)
パラオ域で観測された台風発生時における擾乱活動について

09:25 - 09:47 金井 惇平 (三重大学 大学院生物資源学研究科)
台風衰弱のプロセス ~圏界面変動の影響~

09:47 – 10:09 坂 泰志 (三重大学 大学院生物資源学研究科)
三四半球をめぐる北半球中高緯度の気候海洋間強制的東進連鎖

10:09 – 10:31 関 陽平 (三重大学 大学院生物資源学研究科)
気温急変の気候学的見解

10:31 – 10:45 休憩

10:45 – 11:35 **新野 宏 (東京大学 大気海洋研究所)
渦・対流・シア流とその相互作用

#講演時間: 一般講演(無印)22分間, 招待講演(*)25分間, 特別講演(**)50分間.